

修身小學

重野安禪 丹野安禪 下野安禪 三田利徳 同輯 卷一

165

271
3
190

57

K110.1
255
1

B I

103



重野安邦
丹野
下所
三田
利啓
德助
行
同
輯

修身小學

版權免許

集英堂藏版



修身小學

緒言

小學之教莫先乎修身。修身之法莫善乎稽聖
經賢傳以得其旨。而聖經賢傳其旨深邃其語
簡奧。非童生幼兒之所可輒解。是修身科之所
以稱難修也。頃日同志相謀。取經傳中卑近易
解。平允易領者。旁及子史百家之言。芟繁除複。
釋以俗語。編成一書。以為童蒙入門之階梯。初
學之徒。熟讀玩味。則於修身或有益焉。若夫抉

修身小學 緒言 集英堂藏版

剔蘊奧之理。剖析精微之義。以補翼經旨。則我輩淺見寡聞。豈敢任焉。

明治十七年七月

編者識

例言

一此書ハ。古人ノ格言ヲ纂輯シ。以テ童蒙ノ德性ヲ啓發スル用ニ供ス。故ニ務メテ平允明晰ニシテ。解シ易キ者ヲ擇ビ。其高尚ナル理義ニ關シ。輒ク兒童ノ耳ニ入り難キ者ハ。採取セズ。

一先輩撰スル所ノ庭訓書。大抵通篇ニ部門ヲ定ムト雖也。此書ハ每卷ニ章ヲ立テ類ヲ分チ。彙倫ノ要ヲ總概シ。敢テ先例ニ沿

ハズ。蓋孝弟忠信禮義廉耻等ノ事ハ。小學ノ教ニ於テ每級講習セザルヲ得ザレバナリ。但級ノ進ムニ隨ヒ。漸次ニ其程度ヲ高クス。

一 每章首節ヨリ末節ニ至ルマデ。次序節目ヲ逐テ編纂シ。彼此混載セズ。蓋童蒙誦讀ノ際。融會シ得ン。一ヲ欲スレバナリ。
一 各節ノ末ニ書名若クハ人名ヲ注シ。以テ其語ノ出所ヲ示ス。

一 據ル所ノ書。和文アリ漢文アリ。漢文ニ係ル者。直ニ其訓讀ニ從テ記述スル時ハ。意義通曉シ難キ所アリ。故ニ間々俗語ヲ以テ之ヲ解釋ス。然レモ敢テ私意ヲ加ヘズ。因テ欄上ニ原文ヲ掲ゲテ。以テ之ヲ證シ。且教師諸家ノ參觀ニ備フ。

一 經書ハ。悉ク古人ノ注解ニ據リテ之ヲ釋シ。敢テ私ニ解ヲ下サズ。但シ注解ニ異同アルモノハ。務メテ其穩當ニシテ經旨ヲ

得ル者ヲ採リ。必シモ新舊諸家ヲ墨守セ
ズ。

編者誌

修身小學卷一

重野安繹 閱
丹所啓行
下田利徳 同輯
三

第一章

○よく父母につかふるを孝
となす。爾雅

能事父母爲
孝

人之行莫大
於孝

孝為百行之
源萬善之首

○人のおこなひ。孝より大なるはなし。孝經

○孝は。百行のもと。萬善のはじめなり。初學知要

○父母の恩は。山よりもたかく。海よりもふかき。六論行義大意

○およそ人は。恩を忘るべし。恩を忘らざれば。鳥獸におなじ。初學訓

○わが身をまづかきめず。父母の名をけがさざるは。孝の道なり。同上

ときい。かならず面謁せべし。
禮記

○父母われをよびたまをも。
はやく行くべし。遅くしてお
こたるべからず。初學訓

○父母を意にをし人命をも

ことあらばつゝしんで聴き。
つとめてはやく行ふべし。同上

第二章

○人の人たる所以は。禮義あ
ればなり。禮記

○人に交をもふは。つねに禮

人之所以爲
以者禮義也

孝經卷第一 第一

久
禮自身尊

義を正しくも
べし。大和俗訓

○朋友のあひ
だ。禮のつけを
ば争ひなす。同
上
○禮のしみづり



朋友相敬を圖

恭敬之心禮
之本也

ら卑下して人を敬ひ尊ぶ。禮
記
○恭敬のこころは禮の本を
り。同上

○人のわきふ不義無禮なる
をば怒り怨むべからず。大和俗
訓
○勝ことのみを知りて負る

ことを知らざれば。わがまをひ
其身に至る。東照公遺訓

○人をせめざまば。人にうら
まろしことなり。わが不善を
せむれば。わが身に益あり。初學訓
○辭は。必ず信實にまべし。假

初ふも詐るべからず。大和俗訓

○人と約したる事あらば。必
其約をたがへざるべし。童子訓

○言ふこといやく。行ふこと
とはかたし。言行を相違なき
を要まべし。同上

言輕則招憂

○言輕けまきば。うれひを招く。
楊子雲

禍莫大於多言

○禍も。多言より大なるいふ
。文中子

多言衆所忌

○多言は。人の忌み嫌ふもの
なり。范質

○人の過を知るも。妄に言ふ
べからず。大和俗訓

○過をはぢて。詐りかざるべ
からぬ。同上

○常にわが身をかへりみて。
まづわが過をしるべし。同上

多言衆所忌 七 善言能改人

善人交きば日々小善言をまき。善事を見なるとひて益あり。同上

○善人に交きば。日々小善言をまき。善事を見なるとひて益あり。同上

○幼きときより。好んで善を行ひ。務めて悪を去るを以て。志とせべし。童子訓

習善則為善人習惡則為惡人

凡危険不可近

凡向火勿迫近火傍不惟

○善にならへば。善人となり。惡小ならへば。惡人となる。慎心録

第三章

○火にむかはば。衣服を焚まべし。童蒙須知

○火にむかはば。衣服を焚ま

凡向火勿迫近火傍不惟

舉止不佳且
防焚裁衣服

凡飲食之物
勿爭較多少
美惡



焦まこと心
付べし。同上

○飲食の品の
多少と美惡と
を争ひ擇ぶて
とならま。同上

○衣服の身の志るなり身
と相應せし。正しきものを
らび用ふべし。大和俗訓

○器物の朝夕に用あるもの
を寶とまべし。家道訓

○窓壁又は机書籍の類は字

窓壁几案文
字間不可書

字

凡書冊須要
愛護不可損
汚細措

を書くべからず。童蒙須知

○書冊は大切に用ふべし。そ
こなひ汚むべからず。同上

○書をよめば古の賢まき人に
まみえてそのをしへをまき
が如し。初學訓

書は貴讀
多自然曉

○書は多く讀むことを肝要
とす。讀むこと多ければ自然
にその義理をさとす。朱子

○少き時ひまををしみて學
問をつとむべし。誠よ一生の
寶となるものなり。大和俗訓

十

修身小學卷一終

明治十七年七月廿六日版權免許
同 年九月 四日出版

定價金壹圓

編輯人

東京府士族

丹所啓行

東京府士族

下 啓助

東京府士族

三 田利徳

東京府士族

小林八郎

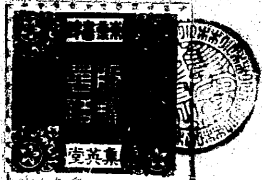
出版人

日本橋區通筋町十一番地

發行者

野洲市津島大工町

集英堂支店



修身小學

重野安禪
丹所啓行
下田啓助
同輯
閱
卷二

K1101
98
2